

◆安全対策のための情報収集

- 外務省「海外安全ホームページ」は確認したか。
- 滞在地における脅威の対象，日本人などに対する事件例に関する説明を受けたか。
- 滞在地の治安などに関する説明を十分受けたか。
- 滞在地治安機関の能力と信頼性を把握したか。
- 警備会社（警備員）の信頼性を把握したか。
- 滞在地の危険分析を的確に行ったか。
- 滞在地での習慣や注意すべき事項を把握したか。

◆住居の選択

（ア）事前のチェック

- 住居の選択に際し，他の日本人の助言を得たか。
- 危険に応じた「住居の安全対策基準」を自分なりに定めたか。
- 市街地（道路）地図を入手し，図上研究を行ったか。
- 信頼できる住宅業者がいるか。

（イ）交通経路の安全確保

- 自宅から目的地（例えば事務所）まで，2本以上の安全なルートをとれるか。
- ルートの道幅は比較的広くかつ安全か（両方通行であること）。
- ルートには尾行された時に避難できる安全な場所（例えば警察署）があるか。
- 決まった目的地まで行くのに危険地域を通らなくても済むか。
- 学校やスーパーマーケットなど毎日出かける場所までのルートは十分安全か。

（ウ）地域の安全確保

- 住居周辺の治安情勢をチェックしたか。
- 住居の周辺地域の住民の安全に対する関心は高いか。
- 警察, 消防, 医療, 救急機関などのサービスが緊急時に短時間で利用可能な範囲か。
- 犯罪多発地域に隣接していないか。
- 住居を監視される場所が近くにないか。
- 不審者や不審車両に対する警戒が容易か。
- 付近にテロの目標となるような施設はないか。

(エ) 住居の安全確保

- 住居の周辺に犯人が身を潜めるような場所はないか。
- 隣の住居の住人について調査したか。
- 住居への出入り（特に車両）は安全かつ迅速に行える構造か。
- 住居の安全対策は周辺の住居の安全対策（外観）と比べて同等以上か。
- 家主は住居の安全対策強化に積極的か。